

令和元年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7	公共交通利用環境改善事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(7)-ウ			
担当部課名	企画部 交通政策課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R3 年度	人に優しい交通手段の確保			
事業内容	①【ノンステップバス導入補助】高齢者や障がい者の利用環境の改善を図るため、バス事業者が乗降性に優れたノンステップバスを導入する際の購入費を補助する。 ②【多言語対応機器導入補助】外国人観光客等がバス移動する際の利便性の向上を図るため、バス事業者が多言語に対応した車内案内表示器を導入する際の購入費、バス協会が多言語に対応したバス停標識を導入する際の購入費を補助する。 ③【公共交通利用促進に関する広報活動】路線バス利用者数の減少傾向に歯止めをかけるため、ラジオCM及び新聞広告等の広報及び啓発活動を行う。 ④【バスレーン拡充等検討調査業務】バスによる移動時間(運行時間)を短縮し、公共交通機関の利便性向上を図るため、基幹バス導入に向けたバスレーンの拡充に係る調査・検討を行う。今年度は、牧港-伊佐間(北向け)のバスレーン延長の効果・影響調査、コザまでの新規バスレーン導入に向けた検討、関係機関との協議を実施する。 ⑤【公共交通利用促進に向けた調査業務】バスの利便性向上に繋がる事業者の新たな取り組みを促すため、新規ダイヤ、新規路線(既存路線の増便や時間修正を含む)の設定に向けた調査・検討を行う。						
効果発現年度	<input checked="" type="checkbox"/> 当年度 <input type="checkbox"/> 後年度(年度)						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	H29年度(繰越)	H30年度	H30年度(繰越)	R1年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	542,616		247,486		252,679
		(b) 予算現額	542,616		233,320		252,679
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 14,166	0	0
		(d) 前年度繰越額	0				
		A. 計 (b+d)	542,616	0	233,320	0	252,679
	B. 執行済額		535,389		228,514		237,552
	うち交付金充当額		428,311		182,811		190,041
	C. 次年度繰越額		0		0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		98.7%	#DIV/0!	97.9%	#DIV/0!	94.0%
予算の状況の説明		執行率は94.0%であり、主に補助事業者の計画変更に伴うノンステップバス導入台数の減(1台分)による執行残が発生したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R1活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	
	①【ノンステップバス導入補助】 ノンステップバス導入支援台数	目標	43台	17台	4台	4台	
		実績	43台	17台	3台	3台	
	②【多言語対応機器導入補助】 ②-1車内案内表示器導入支援台数 ②-2バス停標識導入支援基数	目標	-	車内表示器 230台	車内表示器 50台 バス停 7基	車内表示器 30台 バス停 9基	
		実績	バス停 11基	車内表示器 292台 バス停 3基	車内表示器 50台 バス停 3基	車内表示器 30台 バス停 6基	
	③【公共交通利用促進に関する広報活動】 ラジオCM及び新聞広告等の広報及び啓発活動の実施	目標				実施	
		実績				実施済	
	④【バスレーン拡充等検討調査業務】 ・バスレーン延長の効果・影響調査 ・関係機関との協議等の実施	目標				調査・協議	
		実績				実施済	

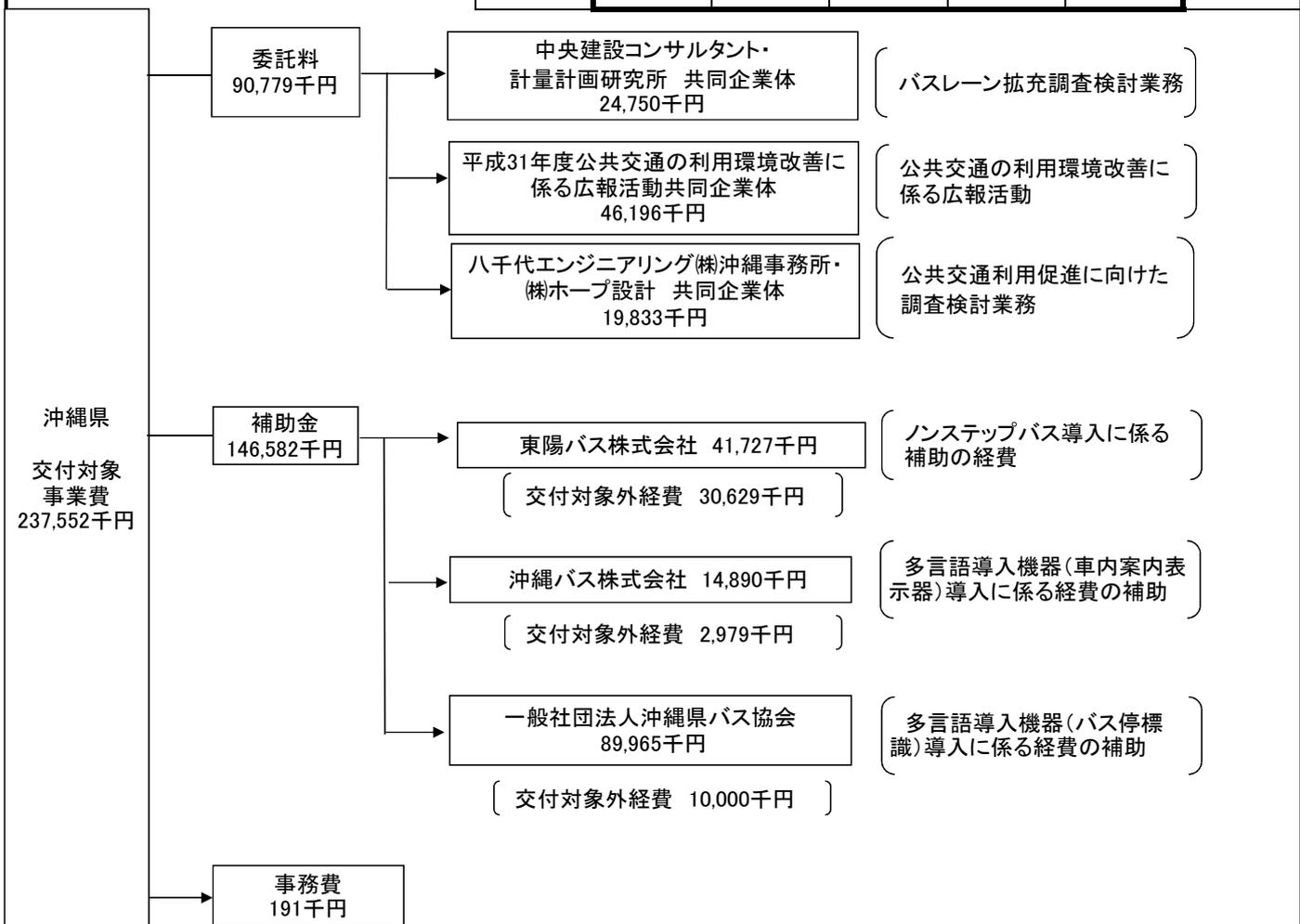
活動目標 (指標) 及び達成状況	達成状況説明	⑤【公共交通利用促進に向けた調査業務】 新規ダイヤ、新規路線(既存路線の増便や 時間修正を含む)の設定に向けた調査・検討	目標				調査・検討
			実績				実施済
		<p>①ノンステップバス導入支援台数については、補助事業者の計画変更により年度当初の単年度目標台数の導入はできなかったが、平成24年度からの累計台数としては目標台数に達している。</p> <p>②-1 多言語対応機器(車内案内表示器)については、目標に設定した台数の導入支援を行った。</p> <p>②-2 多言語対応機器(バス停標識)については、目標9基に対して6基の実施となったが、全体計画としては順調に整備が進んでおり(残り7基)、R3までに全ての対象バス停(設置不可箇所以外)に設置できる見込みである。</p> <p>③ラジオCM629本、新聞広告6回掲載などを実施した。</p> <p>④バスレーン拡充について、前年度に行ったバスレーン延長の効果・影響調査を行った。</p> <p>⑤公共交通利用促進に向け、新規ダイヤ・路線の設定に向けた調査検討を行い、課題を把握・整理した。</p>					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R1成果目標(指標)		基準値 (〇〇年度)	H29年度	H30年度	R1年度	目標値 (R4年度)
	①【ノンステップバス導入補助】 バス利用者における導入したノンステップバスの満足度49%以上	目標	—	—	アンケート実施	49%	
		実績	—	—	56.5%	45.8%	
	②【多言語対応機器導入補助】 外国人観光客における県内路線バスの満足度71.9%以上	目標	—	—	アンケート実施	71.9%	
		実績	—	—	71.9%	68.8%	
	③【公共交通利用促進に関する広報活動】 県民の路線バス等利用意向40%以上	目標			30%以上	40%以上	
		実績			47.7%	48.8%	
	④【バスレーン拡充等検討調査業務】 ・久茂地-伊佐間(北向け)のバス移動時間の短縮2分 ・新規バスレーン導入に向けた方針決定	目標				時間短縮 2分	
		実績				時間短縮 1.1分	
	⑤【バスレーン拡充等検討調査業務】 ・新規ダイヤ、新規路線(既存路線の増便や時間修正を含む)の設定に向けた実証実験等の計画策定	目標				計画策定	
実績					計画策定		
		<p>①ノンステップバス導入支援により県内におけるノンステップバス導入率は向上しているものの、満足度は目標値に達していない。</p> <p>②-1多言語対応機器(車内案内表示器)導入支援により導入率は向上し、外国人の満足度も概ね目標を達成している。</p> <p>②-2多言語対応機器(バス停標識)については、目標9基に対して6基の実施となったが、全体計画としては順調に整備が進んでおり(残り7基)、R3までに全ての対象バス停(設置不可箇所以外)に設置できる見込みである。</p> <p>③広報活動を通じて公共交通の利用意向の醸成を図ることができた。</p> <p>④バスレーン拡充について、前年度に行ったバスレーン延長の効果・影響調査を行った。</p> <p>⑤公共交通利用促進に向け、新規ダイヤ・路線の設定に向けた調査検討を行い、課題を把握・整理した。</p>					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>①ノンステップバス導入事業実施にあたっては、多額の自己負担を伴うことから、バス事業者における経営状況を踏まえた車両更新計画を注視する必要がある。ノンステップバス導入事業については、事業実施前の平成23年度の9台から令和元年度末には218台へと増加し、移動利便性の環境整備が進むにつれ、さらに、導入路線を拡大してほしい等利用者からの意見が聞かれるようになった。</p> <p>②-1多言語対応機器(車内案内表示器)についても、バス事業者の自己負担が伴うことから、計画的な導入を進めていく必要がある。</p> <p>②-2多言語対応機器(バス停標識)については、歩道空間の制約等により、上屋等の設置が困難な箇所がある。</p> <p>③広報事業については、更なるバスの利用促進を図るよう取り組む必要がある。</p> <p>④バスレーン拡充については、道路空間の一部を占有することから、さらなる延長については、県民の合意形成が必要である。</p> <p>⑤公共交通利用促進調査については、那覇空港におけるバス停への案内表示不足や、大学生のマイカー利用率の高さが課題として把握された。</p>	<p>①ノンステップバス導入後の運用面について、引き続き、バス事業者等とサービス活性化に向けた意見交換を行い、運用面における現状や課題等の共通認識を図り、更なるサービスの改善に繋げる必要がある。</p> <p>②-1多言語対応機器(車内案内表示器)の未導入路線についても、計画的な導入を進めることで、外国人観光客の利便性を高め、満足度の向上に繋げる。</p> <p>②-2多言語対応機器(バス停標識)については、設置可能な場所についての精査が必要である。</p> <p>③車保有者の公共交通への利用転換を促進するような取り組みを検討する。</p> <p>④バスレーン拡充については、バスレーン延長後の交通流調査・分析を行い、更なる延長に向けて取り組む必要がある。</p> <p>⑤公共交通利用促進調査については、那覇空港における観光客へのバス停への案内表示や、大学生の公共交通機関への行動変容を促す必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>①ノンステップバス導入後の運用面について、引き続き、バス事業者等とサービス活性化に向けた意見交換を行い、現状や課題等の共通認識を図り、更なるサービスの改善に繋げる。</p> <p>②-1多言語対応機器(車内案内表示器)の未導入路線についても、導入促進を図り、外国人観光客の路線バス利用におけるサービス向上に取り組む。</p> <p>②-2多言語対応機器(バス停標識)については、設置可能な場所についての精査を進め、設置漏れのないよう慎重に整備を行う。</p> <p>③車利用者の公共交通への転換に効果のあるテーマを選定し、訴求する取組を検討する。</p> <p>④バスレーン拡充については、バスレーン延長後の交通流調査・分析を行い、さらなる延長について県民の合意形成を図っていく。</p> <p>⑤公共交通利用促進調査については、那覇空港における観光客へのバス停への案内表示や、大学生の公共交通機関への行動変容を促すための取組を継続し、新規路線等の調査に取り組む。</p>		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
281,159	237,552	190,041	47,510	0	0	43,608



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
資金の用途の点検・評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託業者は、公募型プロポーザル方式により、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ・費目や用途については、事業目的の観点から必要なものであるか、完了検査、額の確定時において、支出等に関する証拠類を確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	